

令和4年10月27日

苫小牧市長 岩倉博文 様

北海道中途難失聴者協会 会長 中川 智美

### 苫小牧市民ホール建設に係る要望書

日頃より、貴地域の私ども聴覚障害者の福祉向上にご理解、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

意思疎通支援関係で様々な行事や催し通院などに要約筆記者を派遣していただき、一定の効果があり深く感謝いたしております。

苫小牧市では現在、市民ホールを建設中であるとお聞きしました。

人生の途中で音を失ったり、聞こえが悪くなった者は講演や音楽鑑賞などからは疎外されていることが多いです。

聴覚障害は人それぞれで障害の程度も人によって違うのですが、障害が比較的軽い者はヒアリング・ループなどの補聴システムを導入していただくことで、講演や音楽鑑賞を楽しむことが可能になると予測されます。

苫小牧市では身体障害者手帳を所持している聴覚障害者は少ないと思われませんが、手帳の取得段階にない耳に軽い障害を持つ者は一定数いるものと考えます。補聴システムはその範囲の障害者にとってはとても有効なものとなると思います。

現在建設中の市民ホールの一部に補聴システムを採用していただくこと要望いたします。

〒080-1219 河東郡士幌町字士幌西2線162番地

北海道中途難失聴者協会

会長 中川 智美

TEL : 090-8638-4998 (岩淵事務局)

FAX : 01564-5-2260 (中川)

E-mail : naka527@.tbz.t-com.ne.jp

令和4年11月8日

苫小牧市長 岩倉 博文 様

北海道中途難失聴者協会 苫小牧支部  
支部長 清野 三男

### 苫小牧市民ホールへの集団補聴システム配置に係る要望書

平素は当団体の活動に格別のご支援を賜り御礼申し上げます。

苫小牧市では聴覚障害者の活動に対し、コミュニケーション支援として手話通訳や要約筆記通訳の利用を推進していただき、感謝しております。

聴覚障害者の中でも難聴者は、ある程度聴力が残っており、残存聴力をできるだけ活かすことが、認知症予防などの観点からも望ましいとされています。

ただ補聴器や人工内耳を使用して一定の効果を得られる難聴者でも、ホールなどの大空間では反響や雑音でとても聞き取りづらくなります。聞きとれないからと講演会やコンサートなどに行くことを諦めている難聴者が、苫小牧市にもいるのではないのでしょうか。

周囲の反響や雑音に左右されず、音をクリアに聞くための機器として、「ヒアリンググループ」等の集団補聴システムが開発されております。

障害の状況には個人差があるため、全ての難聴者に有効とは言えませんが、効果のある人にとっては、補聴器・人工内耳や小型の専用受信機を通して、音源が耳元にあるように、くっきりと聞くことができます。

現在苫小牧市では市民ホールの建設計画を進められていますが、「障害者を含む多様な利用者が緩やかに共存する居場所の創出」に期待しております。こちらのホールにぜひ集団補聴システムを配置していただけますようお願い申し上げます。

連絡先 北海道中途難失聴者協会 苫小牧支部  
事務局長 荒井 さとみ

F A X : 01456-7-8390

E mail : sheepsleap@yahoo.co.jp



(付記)

今年8月に、当協会員が所用にて道内の他自治体を訪問した際、ヒアリンググループを試聴する機会を得ました。

貸出用の受信機を使い、中度難聴者（普段補聴器使用）、軽度難聴者（補聴器使用なし）、健聴者（60代）、の計3名が試してみても全員が「良く聴こえる」と感じました。

特に中度難聴者は「補聴器を使わなくてもくっきり聴きとれたのは驚き」と喜んでいました。60代健聴者も「はっきり聞こえる」と言っていましたので、難聴とまで行かずとも高齢で耳が遠くなってきた人にも効果がありそうです。

「以前落語会に行ったが聞き取れなくて残念だった。でもこれを使えば楽しめるかも」

「もし携帯式で貸出してくれれば、例会やイベントでも使いたい」

など色々な場面で使ってみたいとの声が上がっていました。

今回試聴したヒアリンググループはソナール社製のものです。

本文に書きましたように、全ての難聴者に効果があるとは言えず、たまたま試聴した3名の耳に合っていたのかも知れませんが、一定数の方には効果が見込めると思い、要望を出した次第です。ぜひご検討をお願い申し上げます。

